TOPICS OF
MUSIC

2011.08 - 2012.01

音旬

1 藝大フィルハーモニアがナクソス・レーベルでCDデビュー
CDジャケット

2 竹山愛さんCDリリース
「藝大アーツ イン 東京丸の内」の演奏風景等

1 藝大フィルハーモニアがナクソス・レーベルでCDデビュー 日本作曲家選輯 東京藝術大学編

十一月九日、本学は、前身の東京音楽学校の作曲科主任教授であった橋本國彦の晩年の名作「交響曲第二番」、親鸞聖人の浄土和讃をもとに作曲された「三つの和讃」などを収録したCDを、ナクソス・レーベルからリリースした。日本人作曲家の貴重な作品を広く世に紹介するシリーズ企画である「日本作曲家選輯」で「東京藝術大学編」という独自の企画を提案し、実現させたもの。

藝大フィルハーモニア（音楽学部管弦楽研究部）が演奏し、演奏芸術センターの湯浅卓雄准教授が指揮、バリトン・ソロを音楽学部声楽科の福島明也准教授、録音・編集は亀川徹教授をはじめとする同音楽環境創造科のスタッフ、解説は同楽理科の大角欣矢教授と福中冬子准教授、同音楽研究センターの三枝まり教育研究助手らが担当している。さらに、美術学部デザイン科の松下計准教授がカバー・デザインをおこなうなど、演奏から録音、解説、デザインに至るまですべて、本学の教員の手で制作した画期的なCDである。今回のCDは、ナクソスの世界的なネットワークにより、日本国内はもとより、世界六十カ国を超える市場に「東京藝術大学ブランド」として出回り、本学の名を広く世界へ発信することになる。

2 竹山愛さんCDリリース

昨年三月に本学大学院音楽研究科修士課程を修了した竹山愛さん（フルート）のCD「プレイズ・パリ」（企画・制作：（株）ソニー・ミュージックダイレクト、販売：（株）ミューズエンターテインメント）が十一月十六日にリリースされた。

このCDは、本学と三菱地所株式会社が共催で、毎年秋に東京丸の内の丸ビルで開催している「藝大アーツ イン 東京丸の内」が開催五周年を迎えた記念に全国発売されたもの。

「藝大アーツ イン 東京丸の内」では、本学を卒業した若い芸術家を支援するため「三菱地

グラーフ・ピアノ ワークショップ
《グラーフ・ピアノの魅力に触れる》 4
ワークショップの様子

世界音楽週 2011 3
中央音楽学院にて

5 管楽器
ミュージックセミナー
国立磐梯青少年交流の家にて

所賞」を設け、受賞者記念リサイタルをおこなってきた。今回は、過去四回の受賞者から一名を選考し、CDを企画・制作することでさらなる飛躍を後押しした。

3 世界音楽週2011

十一月二日から五日までの間、中央音楽学院（中国・北京）で、本学音楽学部の協力のもと、「世界音楽週」が開催された。

「世界音楽週」は、本学の芸術国際交流協定校である中央音楽学院が毎年開催している学術的な音楽文化事業。二〇一一年度のテーマは「日本」であり、音楽学部が日本側パートナーとして全面的に協力した。

音楽学部は、講演、研究発表、ワークショップ、コンサートなどのさまざまな形で日本の伝統音楽および近現代の音楽を紹介し相互交流を深め、なかでも三味線音楽を体系的に紹介したコンサートは、そのプログラムの完成度と演奏の質の高さで中国側に大きなインパクトを与え、大変好評を博した。

4 グラーフ・ピアノ ワークショップ《グラーフ・ピアノの魅力に触れる》

本学で昨年購入した、コンラート・グラーフが一八三九年に製作したフォルテピアノを用い、音楽学部器楽科（古楽）主催で学内向けに全五回のワークショップを展開した。

野々下由香里准教授とフォルテピアノの小倉貴久子非常勤講師が案内役となり、テーマに応じて他科よりゲスト講師を招き、ミニ・レクチャー&演奏およびミニレッスン、体験コーナーの三部構成で、グラーフ・ピアノの魅力に迫ろうとしたもの。

七月二十二日の第一回「紹介・導入編」、十月二十八日の第二回「歌曲」、十一月十五日の第三回「ベートーヴェン　後期ピアノソナタ」、十二月十三日の第四回「弦楽器による室内楽の愉しみ」、そして、二〇一二年二月八日の最終回「管楽器の世界」と続き、六オクターヴ半の鍵盤と四本のペダルは、演奏家にさまざまな示唆を与えてくれた。

5 管楽器ミュージックセミナー

十月二十九日と三十日の二日間、福島県猪苗代町にある国立磐梯青少年交流の家において、本学と共催で、福島県内の中高生管楽器奏者を対象にしたミュージックセミナーが開催された。

このミュージックセミナーは、一九九二年よりほぼ毎年同時期に、本学の教員と学生が講師として中高生に対する演奏の技術指導をおこなっているもの。

今回の受講生は百十五名。本学からは、杉木峯夫教授と岡崎耕治招聘教授に、大学院生と学部生の学生二十名を加えた合計二十二名が参加し、学生によるアンサンブルと熱心な指導により、受講生にとって大変有意義なセミナーとなった。

TOPICS OF
FILM AND
NEW MEDIA
2011.08 - 2012.01

映画

東日本大震災の被災地にて。取材先で立ち寄った廃屋に持ち主不明のアルバムが集められていた

「なみのおと」より

酒井監督の取材風景

東日本大震災復興アーカイブ支援プロジェクト 1

映画専攻

『THE DEPTHS』(監督:濱口竜介) ©東京藝術大学・韓国国立映画アカデミー

『可愛い女』(監督:早坂亮輔) ©東京藝術大学

OPEN THEATER 2011 2

映画専攻

公開講座—馬車道エッジズ「コンテンポラリーアニメーション入門」 3

アニメーション専攻

公開講座「OPEN TRADITION」 4

アニメーション専攻

馬車道コンサート
第４回「木管五重奏」の演奏風景 5

三月十一日、地震・津波・放射能という三重の災害が東北地方を襲い、ＴＶやインターネットを通し衝撃的な映像が伝えられてきた。しかし、それらの多くは報道機関が伝える被災の映像であった。被災地の市井の人々の口から語られる現実および証言、復興の様子を記録し後世に残すこと。それこそが、今、映像研究科としてできること、すべきことだと考え、現地で被災者の方々と向き合い、映画・映像としてどのように震災にかかわることができるのか、新たな種類の希望を写し撮ることができるのか、模索しながら今後も活動を続けていく予定である。

1 東日本大震災復興アーカイブ支援プロジェクト

◎映画専攻

本学大学院映像研究科では、研究科内に震災復興記録映像制作チームをつくり、せんだいメディアテークの「３がつ11にちをわすれないためにセンター」と協力しながら記録映像の制作をおこなった。そして、報道機関に頼らず市民や専門家が被災地復興の様子を記録・情報発信するという、通称「わすれン」プロジェクトで撮影された「なみのおと」（監督：濱口竜介、酒井耕）が山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された。

2 OPEN THEATER 2011

◎映画専攻

十月九日から十日までの間、本学横浜校地馬車道校舎において、「OPEN THEATER 2011」を開催した。

横浜市との共催で文化芸術創造都市づくりの推進事業としておこなわれた本イベントは、今回、インターネット上で事前投票をおこない、その結果を受けて上映作品を決定した。上映作品は、『SOLARIS』『彼方からの手紙』『THE DEPTHS』『可愛い女』『しんしんしん』『夕映え少女』の六作品で、二日間合わせて二百八十名の来場者があった。

3 公開講座ー馬車道エッジズ「コンテンポラリーアニメーション入門」

◎アニメーション専攻

九月十八日、本学横浜校地馬車道校舎において、公開講座ー馬車道エッジズ「コンテンポラリーアニメーション入門」第七回講座を開催した。現代の短編アニメーションの状況を作家、作品を中心に紹介する本講座は、今年で三期目に入った。

第七回講座は、『マイブリッジの糸』と題し、カナダからＮＦＢ（カナダ国立映画制作庁）のプロデューサー、マイケル・フクシマ氏を迎え、本学の山村浩二教授がＮＦＢとの共同制作の中で、監督として今年完成させた『マイブリッジの糸』を巡り二人で講義をおこなった。

十月八日には、第八回講座『キャロライン・リーフ、描くこと、動くこと』と題し、イギリスからアニメーション作家、キャロライン・リーフ氏を招聘し、寡作ながらアニメーション史に大きな足跡を残した彼女の作品群を自ら解説していただくなど、大変好評であった。

4 公開講座「OPEN TRADITION」

◎アニメーション専攻

十月一日、本学横浜校地馬車道校舎において、日本のアニメーション黄金期に活躍された小田部羊一氏を講師としてお迎えし、公開講座「OPEN TRADITION」を開催した。

本学から生まれた才能が日本のアニメーションに受け継いだ「伝統」をテーマにしたこの公開講座は、第一部で、小田部氏が原画を担当した「太陽の王子 ホルスの大冒険」を35ミリフィルムで上映し、続く第二部の講演では、司会に本学の伊藤有壱教授、モデレーターにイラン・グェン非常勤講師を加え、前田青邨門下で学んだ本学美術学部絵画科（日本画）時代から、東映動画時代、そして、名作アニメーションでのかかわりや、任天堂時代におけるアニメーションとのかかわりなどについて、本学の先輩として、小田部氏から貴重な体験談を交えたお話をうかがった。

さらに、現在アニメーション専攻で学んでいる学生たちへの貴重なアドバイスもあり、学生にも、また一般参加者にとっても有意義な時間となった。

5 馬車道コンサート

七月二十二日から十一月十八日までの間、歴史的建造物である本学横浜校地馬車道校舎（旧富士銀行横浜支店）において、横浜市との共催で文化芸術創造都市づくりの推進事業として毎年度開催している馬車道コンサートを今年度も開催した。

今年度は、同校舎のエントランスホールを利用し、本学音楽学部の教員および学生による、「ホルン三重奏」（七月二十二日）、「ピアノ・リサイタル」（九月十四日）、「サクソフォン四重奏」（十月十四日）、「木管五重奏」（十一月十八日）の四種類のコンサートをおこなった。

このコンサートは幅広い年齢層の支持を受けており、勤め帰りのサラリーマンも鑑賞できるよう配慮し開演を十八時三十分としたところ、合わせて約二百五十人の来場者があり、次年度開催の予定を尋ねられるなど、好評を得ることができた。

音楽学部の協力を得て開催してきたこのコンサート事業は、すでに地域に定着しているといえる。

TOPICS OF
FINE ARTS

2011.08 - 2012.01

美旬

こよみのよぶね

ササクサス Plus+

隅田川新名所物語 2011

記憶の森 映像展

油絵茶屋再現

イノベーションプロジェクト

下町で発生した見世物、エスプリ展

GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト | 1

MIST

GTS音楽コンサート

東京スカイツリー®を描く絵画展

GTSシンポジウム

1 GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト

平成二十二年度から二十四年度までの三年間の計画でスタートした、本学と台東区、墨田区の三者共催による地域連携事業、GTS観光アートプロジェクト。

二年目の今年度は、「アート環境プロジェクト2011」と「隅田川 Art Bridge 2011」の二本の事業を柱に、十月から十一月にかけて東京スカイツリーと浅草界隈を結び、隅田川を挟む台東区と墨田区の両地域を舞台としてさまざまなイベントが盛大に開催された。

東京スカイツリーを望む四カ所に設置された環境アート作品とアートベンチを巡り、「隅田川新名所物語2011」「アートサイトクルージング（ササクサスPlus＋、こよみのよぶね、油絵茶屋再現）」「下町で発生した見世物、エスプリ展」「記憶の森 映像展」「イノベーションプロジェクト」などの展示、インスタレーション、パフォーマンス、そして「MIST」チームでは、空、風、土、光に着目した作品群やパレードなど、道行く人々が足を止め、作品に触れ、アートに関心を抱く姿が至るところで見受けられた。

そのほか、「GTSシンポジウム」や区民参加型の「東京スカイツリー®を描く絵画展」、また「GTS音楽コンサート」なども両区内の企画会場で実施された。

穴窯

学生ワークショップ

野焼き

国際陶芸教育交流展

陶芸制作デモンストレーション

窯出し

国際陶芸シンポジウム 2011 in Japan | 2

2 国際陶芸シンポジウム 2011 in Japan

九月十七日から二十八日までの間、本学および国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、本学美術学部の主催で、国際陶芸シンポジウム 2011 in Japan が開催された。

この国際陶芸シンポジウムは、アジア、中近東、ヨーロッパ、北米、南米の陶芸教育者が集まり、陶芸教育を中心に、各国の陶芸文化交流と学生交流を目的としている。

今回、東京でおこなわれたシンポジウムには、世界十カ国、二十六大学から二百二名の教員および学生が参加し、シンポジウムの他、多数の作品が展示された国際陶芸教育交流展、各国教員それぞれの制作技法による陶芸制作デモンストレーション、学生のワークショップなどをおこなった。

このシンポジウムでは、世界各国の現代陶芸文化の多様性を感じられるとともに、研究成果の発表による陶芸の専門知識の共有化や学生同士の交流が図られ、さらに、国際交流により人種間の深い相互理解がもたらされるなど、陶芸文化の国際化へ向けた貴重な一歩となった。

今後も国際陶芸シンポジウムは、世界各地で開催され、陶芸研究の更なる充実と発展が期待されている。

大賞を受賞した大谷さん

学長賞(大賞) 作品「妙に清らの」大谷佳那子(美術学部工芸科(漆芸)3年)

第6回藝大アートプラザ大賞授賞式

準大賞作品「JAPANESE TRADITIONAL COLORS CRAYON
日本の伝統色クレヨン」"SAKURA"「桜」、"UME"「梅」、"KIKYO"「桔梗」
府川大吾(美術学部デザイン科3年)

準大賞作品「永遠を見る」
長尾睦美
(大学院美術研究科修士課程彫刻専攻2年)

3

第六回 藝大アートプラザ大賞展

十一月二十三日から十二月十八日までの間、本学の藝大アートプラザで「第六回　藝大アートプラザ大賞展」を開催した。

同展は、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため二〇〇六年度から実施している学内アートコンペで、第六回目となる今年度は、「時」というテーマで募集をおこない、厳正な審査を経て入選作品を決定し、学長賞（大賞）や準大賞など、入選した総勢六十一名（八十六点）の作品を、藝大アートプラザで展示・販売した。

学長賞（大賞）には、大谷佳那子さん（美術学部工芸科（漆芸）三年）の作品「妙に清らの」が選出された。また、準大賞には、長尾睦美さん（大学院美術研究科修士課程彫刻専攻二年）と府川大吾さん（美術学部デザイン科三年）の作品が選ばれた。

入選した学生は、販売の機会を得たことで社会との交流を図りながら、アーティストとしての自覚を持つことができる。また、この展示は、一般の方に学生の制作活動の一端に触れていただく貴重な機会となっている。